

この1月に、精神分析医の藤田博史氏からの連絡がありました。『ドール・フォーラム・ジャパン』で開催していた公開セミナー「人形愛の精神分析」の次なるシリーズの開催を考えてみないか、というお誘いでした。

私も丁度、思うところがあったので、前向きに考えてみます、とお答えしました。しかし、セミナー開催から10年。第2シリーズに対する双方の思いが重ならないところもあり、まずは私が自分の考えを、毎週開催されている「フジタゼミ」のトピカで発表することになりました。

それが2月10日のことでした。私はそこで、今の創作人形界は他の表現分野と同様、過去にインパクトのあったパターンの焼き直しばかりで、自分としてはワクワクする気持ちで見に行きたいと思える展示が本当に少なくなった、と話しました。その理由を自分なりに考えてますが、そのひとつは、現在の余裕のない経済状況によって、人形の世界が、人形本来の目的である「祈り」と「玩具」の二極に振り分けられ、表現が収束し始めているのではないかと思うのです。

元来、創作人形は世界のどこをみても、経済と時間の余裕のある先進国にしか生まれてこないものです。最近の海外の関係者とのやりとりでは、十年ほど前までは活況にあった創作人形の作家数や市場が風前の灯状態になってしまったと、よく聞きます。たとえば、イギリスでは創作人形は、今はほとんど皆無だそうです。

(ロシアの創作人形の活況ぶりは解放までの遅れをとりもどす勢いで、例外的です。)

逆に人形で今、世界的に活気を呈しているのは、量産型、またはその装いを呈したBJDやファッションドール。それは明らかに人形の玩具としての性格を志向するものです。また一方では、創作人形作家のテーマが、祈りに関連したものに行き着く傾向もみられます。それは、人形の本質への回帰を促されているとして見ることができます。現代人を圧迫する様々な状況が、人形が二極の本質のどちらかへと回帰するスピードを加速させているのだと思います。

とすると、私が見てきた創作人形の世界とは、その「玩具」と「祈り」の両極の狭間に浮上した希有な表現空間だったわけです。その、きわめてアイデンティティのとりにくい空間に立つことを選んだ表現者がいることは、大変興味深いことです。

現在、いよいよ不況の嵐が強くなり、人々の関心が二極化し、中心が空洞化する渦中で、それでもそこに一人で立とうとする人々を、私は注視し見守っていきたいと思っています。そこにいれば、本当の創作の命を目撃できると思うのです。

私の考えていることが、5月開始を予定している公開セミナーの第2シリーズにどう関わるか、まだ見えていません。やるからには、まず自分もその渦中に打ち込む杭をもって、真空の空間に臨むつもりです。

チーム・コヤアラからのお知らせ

●会員の皆様の活動をお知らせください！

会員の方のご活躍ぶりを、コヤアラ通信でもお知らせいたします。展覧会、イベント、受賞などなど。「こんな展覧会になりました」とか「公募展に入选しました」etc…会員の方に、ぜひアピールしてください！！内容の概要(200字くらい)と、写真1点お送りください。メール、郵送どちらも可。随時受け付けております。掲載号は、原稿受付日よりです。(発行前月の10日)

●海外会員のページ

クリエイターの国際的なサポート体制を築こうというチーム・コヤアラの趣旨に賛同し、会員となった人形作家や団体をご紹介するページを、チーム・コヤアラのウェブサイトにて設けました。「チーム・コヤアラ」のウェブサイトに入ったら、「World」をクリック。海外会員第1号のロシアのレナ&カツァ・ポボヴァの新作がご覧になれます。(この新作は、昨年の来日の際、日本で得た印象や素材で作られました。)他にも趣旨に賛同する作家がいます。これから随時、ページを追加していきます。URL
http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/



コヤアラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000円(更新時に2年分一括払いの方は3900円となります。)年4回(3・6・9・12月)のチーム・コヤアラのニュースレターとDM便が届きます。

お申し込み方法

年会費2000円を以下の方法でご送金ください。
[郵便振替] 通信欄に「コヤアラ入会」とお書きください。
送金先 「口座番号」00140-7-358370 「口座名」チーム・コヤアラ
*ご入金を確認できたらチーム・コヤアラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤアラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

DM同封希望の方(発行月から3ヶ月の間に展覧会を予定されている方)

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封DMは発行月の前月20日にチーム・コヤアラ必着でお送りください。
同封料金 コヤアラ・クラブ会員：2000円 一般(非会員)：3000円

紙上展応募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。
6号×切 2011年5月10日(必着)
以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。
作品写真2~3点(全体・アップ・裸形) サイズ：ハガキ大。
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
*何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人1点になります。
*応募作品はウェブ上で公開されることもあります。(講評は紙面のみ掲載)
*応募書類は返却いたしません。

個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤアラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤアラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤアラの趣旨に沿ってDMクラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤアラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤアラ
東京都東村山市久米川町3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547(担当 ハゼキ)
FAX 042-395-7975
URL http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ(HAZEKI office)
©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。

「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤアラがコヤアラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年4回発行 発行日(予定) 3月1日、6月1日、9月1日、12月1日

特別
寄稿

ベルメール 生誕の地での 展覧会を終えて

菅原多喜夫

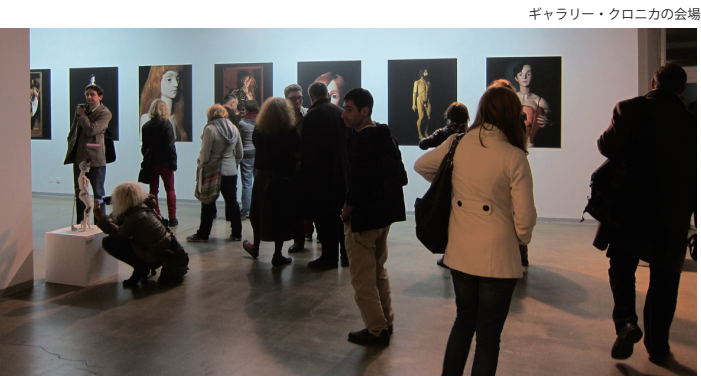


ベルメールの生家の標識を指さす
四谷シモン氏(カドヴィツェ)

昨年の十月、ポーランドのシロンスク県で「四谷シモンと友人たち、日本におけるベルメール」という展覧会が開催された。この展覧会は、シロンスク県の文化事業を行っている外郭団体アルス・カメラリス(本部=カトヴィツェ市、代表=M・ジェリンスキ氏)が主催したもので、四谷シモン作品二点のほか、エコール・ド・シモン関係者十二人の作品、資料ならびに写真等がカトヴィツェ市とビトム市の二会場で展示された。

展覧会の狙いは、四谷シモンが、カトヴィツェで生まれたアーチスト、ハンス・ベルメールの強い影響を受けて日本で創作活動を行っていることがカトヴィツェでも知られており、四谷シモンの人形を実際にカトヴィツェならびにシロンスク県の人々に観てもらおうということと、なぜ日本でこうしたベルメールの活動の直接、間接の影響が広がったのかを考えてもらうというもの。このため、ベルメールの活動の日本における重要な紹介者で、同時に四谷シモンにも強い影響を与えた澁澤龍彦さんの活動も重点的に紹介した。

展覧会のオープニングに際し、四谷シモンと私は、アルス・カメラリスの招きでカトヴィツェを訪問し、町の様子を見ただけでなくベルメールが生まれたアパルトマンも訪問することができた。ポーランドとカトヴィツェについての四谷シモン本人の印象は、「日本人が戦後置き忘れてきたものが、宝物のようにいっぱいある」というもの。はじめてなのどこかしらノスタルジックというのが、正直なところだ。



ギャラリー・クロニカの会場

ところでカトヴィツェの町を歩きながら、われわれは、1920年代から30年代のベルメールの国籍と帰属意識はどうなっていたのかということに疑問におもった。というのもカトヴィツェに行くまで、ベルメールはカトヴィツェ生まれのドイツ人で、第二次世界大戦後、このカトヴィツェの町はドイツ領からポーランド領へ編入されたと、単純に考えていたからだ。ところが今回行ってみて、カトヴィツェは、1922年から39年まで、すでにポーランド領だったということを知った。では、この間ベルメールはどこ国籍をもっていたのだろうか。

またベルメールは1920年代にベルリンに出て行くが、この時代のベルリンは、ドイツ共和国政府が中心になって、町中で新しい文化活動、新しい表現を追求していた。ベルメールの作品、とりわけ「関節人形」では、通常、そのエロティシズム、犯罪性、幼児性などが大きなポイントとされるが、それらはいずれも、ベルメール個人の問題である前に、1920年代のワイマール文化全体が鋭く追求した芸術上の問題点でもある。ベルメールを語るとき、彼の20代とぴったり重なるワイマール文化との関連ももっと問題とされなくてはならないのではないだろうか。

それでは、ひるがえって日本における澁澤、四谷の「ベルメール発見」という意味をもつのかということになるが、今私は、これは、第二次世界大戦後になってようやく、日本は、第一次世界大戦後のドイツの文化的問題意識を共有できるようになったということを示しているのではないかとおもっている。それをふまえて考えたとき、第一次世界大戦後のドイツとベルメール、第二次世界大戦後の澁澤と四谷をつなぐキーワードは何になるのだろうか。端的に言えば、それは「人間の希薄化」ということではないだろうか。第一次世界大戦後に生まれた「人間の希薄化」という意識からベルメール作品を眺め、それを四谷シモンの作品や日本の関節人形の問題全体につなげていきたいというのが、この旅を経て、今、私が強く感じている点である。(四谷シモン・アシスタント)

■開催概要

開催 2010年10月1日~10月31日

会場 シレジア美術館(カトヴィツェ市)、ギャラリー・クロニカ(ビトム市)

■関連記事掲載誌

「夜想」(特集『ハンス・ベルメール——日本の球体関節人形への影響』(2010年12月 ステュディオ・バラボリカ発行)

「TH」(45号)(2011年2月 アトリエ・サード発行)

シレジア美術館のオープニングの四谷シモン氏。その右が筆者。

第2回 #2 KOYAALA FES in Koenji, Tokyo
コヤーラ・フェス
無事終了しました！

第2回コヤーラ・フェスは、初回と同じ会場、高円寺の「自由帳ギャラリー」で、クリスマスの時期に開催されました。高円寺は自然派お洒落志向の「森ガール」の聖地としてマスコミなどでとりあげられてきた町。「自由帳ギャラリー」はその中心地にあります。小さなこじんまりとしたギャラリーですが、出品者20名が「Toy Doll」のテーマにむけて、ユニークな作品に挑んでくれました。新人やベテラン、首都圏から地方在住の方まで、それぞれの素材や技法で取り組んだ愛らしい作品で会場が満たされました。会場とテーマの性格上、小さめの作品が中心になりましたが、それぞれに出品者の技術力、デザイン・センスが凝縮され、見応えのある内容でした。

今回の開催を経て、チーム・コヤーラのイベントとしては、作品展示を通した出品者同士の交流、意見や情報交換することの意義を強く求められていると感じました。特に、地方で個人で制作活動されている方にとっては、重要なことです。

コヤーラ・クラブの会員の方は、全国にいらっしゃいますので、これは次回以降の開催に向けての課題だと思っています。

この通信をお読みの会員も、ご要望やご提案がありましたら、ぜひお知らせください。（羽関）

記録 2010年12月23日（木）～12月26日（日）開催
於・自由帳ギャラリー（高円寺）

会場写真撮影・西村 FELIZ

写真左から1列上から／月光社、前田由紀子、中野久世

左から2列上から／石川かおり、廣瀬幸、西村 FELIZ

左から3列上から／河野滋子、立川好江、河野甲、repunkur、杉山久江、与左右衛門、佐々木英俊、長岡哲生

右列上から／自由帳ギャラリー、L'il Darling、くるはらきみ、佐藤美穂、赤司知穂、ホシノリコ、稲田敦



2011年 世界の人形イベント

世界で開催される、観覧または参加可能な人形イベントです。それぞれ、規模・参加費・条件・入場料・システムが異なります。

出品できないものも、多くのイベントが一般観覧可能です。講習会を用意しているイベントもあります。

海外イベントは、予定や条件が急に変更となる場合がありますので、個人で参加される方は、主催者に事前によくご確認下さい。

タイトル	時期	都市・国	内容	出品について	URL or Email	備考
ドール・プラハ 2011	4月1日～3日	プラハ (チェコ)	趣味の布人形の協会。ゲストにマーレン・フェアヘルスト（オランダ）らを招聘	受付終了	http://cpk.bernina-dani.cz/	
DABIDA 定期展	4月10日	オランダ	オランダとベルギーの創作人形作家の協会の恒例展。ゲストにボボヴァ姉妹（ロシア）を招聘	展示は DABIDA 会員のみ	http://www.dabida.eu/	
人形＋ティディベア作家と収集家の大会	5月12日～14日	フィラデルフィア (アメリカ)	西海岸の人形美術館が呼びかけ、総勢約120名の創作人形とティディベアのプロモーションと交流を目的とした大会の第一回目	出品可。プログラム・講習会あり、事前登録必要。コレクターや出品などの目的によって登録料が異なる。	http://www.quinlanmuseum.com/convention/	ホテルが会場。要英語力。最終日の展示は一般公開で事前登録不要。
ケンジントン・アンティーク・創作・ファッションドールショー	5月22日 9月4日 11月20日	ロンドン (イギリス)	イギリスの人形誌「Doll Advertiser」主催の人形展。アンティーク中心。	一般出品可 出品者募集中	http://www.dolladvertiser.com	年4回開催。
第2回国際ドール・サロン 「キエフ・フェアリーテイル」	5月18日～22日	キエフ (ウクライナ)	ウクライナ最大のドール・ショー。参加者からグランプリ選出（賞金あり）。	一般出品可 出品者募集中	http://www.kyivskakazka.org.ua/	講習会など様々なプログラムあり。
第17回 創作人形フェスティバル	5月28日～29日	エカテリンブルク (ウラル・ロシア)	物とファンタジーの人形の展示。コンテストあり。テーマは「翼・足・尻尾」	一般出品可。海外からの参加者は出品料無料。	f10384@olympus.ru	人形劇場が会場
第20回 国際人形フェスティバル	5月29日～6月5日	ノイシュタッド・バイ・コープルク (ドイツ)	人形産業縁の地をあげてのフェスティバル。玩具工業博物館では年に一度のヨーロッパの作家展開催。	玩具工業博物館での出品は招待者のみ	http://www.spielzeugmuseum-neustadt.de/	歴史のあるフェスティバルで人形美術館巡りも楽しい。開催期間中は周辺のホテルが予約がとれにくくなる。
第6回 ドール・タイム	6月10日～13日	サンクト・ペテルブルク (ロシア)	ロシアを中心に200件ほどの人形やティディベア作家、ギャラリーが出店。コンテストあり。	一般出品可 出品者募集中 (講習会の開催希望の方は HAZEKI office まで)	http://www.dolltime.ru/	会場はエルミタージュ美術館の近く。講習会もあります。
UFDC 総会	7月25日～29日	アナハイム (アメリカ)	全米最大のドールクラブ連盟の総会。日本からも入会可。	UFDC 会員のみ参加可能。	http://www.ufdc.org/	ホテルが会場。人形づくめのプログラムがいっぱい。要英語力。
ナショナル・ドール・フェスティバル	7月23日～27日	アナハイム (アメリカ)	UFDC 総会の隣接する会場での、アンティーク、創作人形などの展示販売会。	一般出品可 出品者募集中	NatDoll@aol.com	展示販売会のみ。特別なプログラムはありません。
NIADA 総会	8月22日～28日	デンバー (アメリカ)	創作人形に特化し、世界最高水準を目指す作家協会の総会。一般参加も可能。	作品講評やプログラムイベントは一般参加OK。 (要事前申込み)	http://www.niada.org/	ホテルが会場。交流のプログラムが多いため、できれば英語ができると望ましい。
第7回 ドール・サロン	10月8日～11日（予定）	モスクワ (ロシア)	ロシアの創作人形界を開拓してきた一般参加型のドール・ショー	一般出品可 出品者募集中	http://moak.ru/	IADA 主催。会場はショッピングモール内の展示場。
第2回 ドール・アート展 (改称)	10月28日～30日	モスクワ (ロシア)	世界で最大・最高レベルを目指す人形展。第1回はT.コヤーラも参加。「コヤーラ通信4号」参照	招待出品の他、一般出品枠あり。出品者募集中	http://www.dollmanege.ru/	会場は赤の広場の「マネージ中央展示場」

コヤーラ・クラブ会員の皆様へ **オーダーメイドの旅行企画** いたします！

◎お一人でも、ご友人との小グループでも、教室の記念旅行でも・・・

◎観光しながら人形関連の施設を巡りたい・・・

◎海外で展示の実績をつくりたい・・・

羽関オフィスでは、今までの海外での展示参加・企画などの実績を元に、目的にあったイベントへの参加のご相談に応じます。

また、人形だけに限らず、ご予定や予算、ご要望にあわせて**オリジナル・ツアー**の企画を承ります。

☞お問い合わせ 目的や行きたい地域、ご予算、目的、日程、その他ご希望をお知らせください。旅行プランをお見積もりとともにご提案させていただきます。

航空券・宿泊・現地送迎・現地での移動や観光手配
添乗員または現地ガイド、通訳も派遣可能。

お気軽にご相談ください！
HAZEKI office 内 担当 小川千恵子
(株式会社ウェブラベル トラベルコンシェルジュ)

TEL：042-395-7547
FAX：042-395-7975
E-mail: chieko.ogawa@webtravel.jp

観光庁長官登録旅行業 第1757号 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
URL: http://www.webtravel.jp
株式会社ウェブラベル 本部
〒113-0024 東京都文京区西片 1-15-15
TEL:03-5802-6911 FAX:03-5802-0022 総合旅行業務取扱管理者 小滝和彦